ガバナー補佐自分を語る

「私の履歴書」

国際ロータリー第2510地区　第9グループガバナー補佐
濱中　實（室蘭RC）

私は、昭和24年(1949年)１月に室蘭で生まれました。昭和20年８月が終戦の日ですから、自分の記憶にある４～５歳のころの住まいの近所の景色は木造の長屋で、水道も共同のもので道端に立っていました。道路もデコボコで車もほとんど無く、荷馬車さえも走っていました。自宅の裏には防空壕があり、道路の傍らにはどぶが流れていました。その時から７０年の時を振り返りたいと思います。

私は死にそうになったことが２度あります。一度目は中学校２年の時の夏休みに近くの坂道を自転車に乗って下る途中でブレーキがきかず、止めることが出来なくなりＴ字路に突入しました。幸いにも両側から車が来なくて無事でした。二度目は大学一年生の時に徹夜で麻雀をして眠りもせずにそのまま海に遊びに行き泳ぎました。ちょうどお盆の時で、海は荒れていましたが、沖にあるドラム缶４本で組んだ筏がありそこへ泳いでいき、その上で休んでいましたが、大波が来て筏が転覆してしまい、平泳ぎで陸を目指しましたが、大波に足を引っ張られ前に進みません。頭の上を波が何度も乗り越えていきますが、体は止まったままで、海水を何度も飲みもうだめかと思いましたが、最後にクロールに切り替えて息継ぎもせずメチャクチャに腕、足を動かしてようやく陸まで生還しました。

この経験は自分の人生の中であきらめなければ何とかなるという教訓になっています。自宅は室蘭半島の高台の海を見下ろす所にあり、毎日日本製鐵の溶鉱炉のノロかすを港に埋め立てのために海に投棄していたのを覚えています。港を出入りする多くの船を毎日見ていて、子供の頃から船の模型を作るのが好きで大人になったら船関係の仕事をしたいと思っていました。当時の日本の造船業は世界の最先端を走っていて就職は函館ドックに決めました。

昭和47年に入社し、仕事は設計や現場の工程管理、船主や船級教会(ロイズ等)の検査の立ち合い等があり充実した日々を送りました。建造した船の種類はバルクキャリア(穀物や石炭等のバラ積み貨物船)やV.L.C.C(30万トンのオイルタンカー)、青函フェリーそして最后に海上保安庁の1,000トン型巡視船を作りましたが、造船不況の波に飲み込まれ、人員整理が始まり昭和54年に退社しました。その年の10月に義父の経営する燃料販売会社（株）室蘭菱雄の苫小牧支店に入社しました。昭和59年に室蘭の本社に移動し現在に至ります。

私の父も義父も共に室蘭ロータリークラブに在籍していましたが、私が中学校の頃に父がロータリーに入った時には大変な喜びようで、名誉あるクラブに推薦され感激していたことを今でも鮮明に覚えています。私が入会したのは義父が亡くなり、その代わりにという事で平成15年に入会しました。当時会員は66名で現在は残念ながら31名と半分以下になっています。

例会やゴルフ同好会での先輩とのお付き合いを通して自分も年齢を重ねたら先輩のように格好の良い大人になりたいと思っていましたが、果たして20年経った今、後輩たちにどのように見られているでしょうか？20年前に入会したときに在籍していたメンバーもほとんどいなくなり、同世代も数少なく寂しさを感じていましたが、この度の石丸修太郎年度にてガバナー補佐という大役を頂き、地区や、他グループでのメンバーとの交流を通して改めてロータリーの可能性を感じることが出来ました。残り少ないロータリーライフですが、自分の出来ることを1つずつ積み上げていこうと思います。ロータリーに感謝！